

平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	分子イメージング研究戦略推進プログラム		担当部局庁	研究振興局	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度～		担当課室	研究振興戦略官付	研究振興戦略官 岡村 直子		
会計区分	一般会計		施策名	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	生体内分子の機能や投与薬物の動態などを生物が生きたままの状態画像化する分子イメージング技術を活用し、創薬プロセスの革新及び疾患診断の高度化等を図る。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	分子イメージング技術を医療へ応用すべく、創薬候補物質探索拠点・PET疾患診断研究拠点と、大学・病院・企業等の連携により構成される研究体制を構築し、技術の実証に向けた共同研究開発を実施する。 ①難治がん診断治療分野、②認知症診断治療分野において、臨床応用に向けたPOC(Proof of concept: 基礎研究で得られた治療学的コンセプトの証拠)を取得することを目標とする。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算	-	530	500	500	500
		補正予算	-	-	-	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	-	530	500	500	500
	執行額	-	529	499	-	-	
執行率(%)	-	99.8%	99.8%	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
	臨床応用に向けたPOCの取得数(累積)		成果実績 件	-	0	0	8
			達成度 %	-	0	0	-
	発表論文数(累積)		成果実績 本	-	81	92	-
		当初見込み		(-)	(90)	(100)	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	-		活動実績	-	-	-	-
単位当たりコスト	論文1本あたりのコスト 6(百万円/本)		算出根拠	単位当たりコスト = H23までの共同研究に係る費用(1,025百万円) / 発表論文数(173本)			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	科学技術試験研究委託費	498.4百万円	498.6百万円				
	諸謝金等	0.3百万円	0.3百万円				
	職員旅費	0.3百万円	0.3百万円				
	委員等旅費	0.8百万円	0.8百万円				
	計	500百万円	500百万円				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	当事業は、第4期科学技術基本計画及び日本再生の基本戦略等において重要事項として位置づけられているライノベーションに資するものであり、国として事業の進捗を管理しながら推進する必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先の選定に当たっては、十分な広告期間を設け、HP等で周知した上で公募を実施しており、その妥当性や競争性を確保している。 なお、委託費の交付決定に当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	分子イメージングは生体内の分子の動きを生きたままにモニタリングできる画期的な技術であり、国が拠点を定めて集中的に整備を進めてきた。本事業では分子イメージング研究をリードする拠点の技術力を活用することで、がん・認知症の新たな診断・治療法を開発するもので、効率的かつ実効性の高い研究実施体制となっている。 また、研究内容については、PD・POにより細かに進捗管理を行うことで、着実な実施に努めている。 本プログラムで対象としているがんと認知症に関しては厚生労働省の関係部署と情報共有を図るなど、関係省庁と連携し事業を進めている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>○明確な目標・計画に沿って国の委託事業として実施する政策課題対応型の研究開発であることから、成果報告書の提出、プログラム運営会議により、事業開始時の当初計画と比べた進捗状況や今後の展望について毎年度確認し、引き続き事業を着実に推進すべき。</p> <p>○平成24年度には、第三者の有識者からなる中間評価委員会を開催し、事業の適切な予算配分や計画の見直しの必要性等を検討しており、その結果を来年度の事業運営に反映していく必要がある。</p>		
	予算監視・効率化チームの所見		
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：本事業は、分子イメージング技術を医療へ応用すべく、創薬候補物質探索拠点・PET疾患診断研究拠点と、大学・病院・企業等の連携により構成される研究体制を構築し、技術の実証にむけた共同研究開発を実施する競争的資金である。</p> <p>2. 所見：本事業は、平成22年度レビュー等の指摘を踏まえ、臨床試験機関の集約によりコスト削減が図られたことは評価できるものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、積算単価を見直すなどコスト削減に努めるべきである。</p>		
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
縮減	<p>事業の進捗状況等えお踏まえ必要経費を精査し、プログラム運営に係る業務費について見直しを行うことでコスト縮減に努め、平成25年度概算要求に▲8百万円を反映した。</p>		
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p>【事業仕分け】 (事業番号/事業名) 事業番号3ー38 競争的資金(ライフサイエンス分野) (結果) 予算要求の縮減(2割～1/3程度) (とりまとめコメント) 分子イメージング研究戦略推進プログラム(第Ⅱ期)については、来年度予算計上は見送りが2名、予算要求の縮減が5名、そのうち半額程度の縮減が1名、1/3程度の縮減が2名、その他2割減が1名、1割減が1名、予算要求通りが2名であった。これも目標、計画をもっと明確にしてほしいというのがほぼ同じ評価であった。その他いろいろあったがそれが共通した見方であった。このため、2割～1/3程度の縮減としたい。</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0262	平成23年行政事業レビュー	0252

文部科学省
499百万円

諸謝金等 0.0百万円
職員旅費 0.6百万円
委員等旅費 0.4百万円 } を含む

分子イメージング研究拠点・共同研究・人材育成実施機関を審査・選定し、マネジメントを実施

【公募・委託】

A:分子イメージング研究拠点
(全2機関)

(独)理化学研究所
166百万円

(独)放射線医学総合研究所
149百万円

分子イメージング技術に関して、臨床での実証を目指した研究開発を実施等

【公募・委託】

B:共同研究実施機関
:152百万円
大学等(全19機関)

分子イメージング研究拠点との共同研究の実施

【公募・委託】

C:人材育成実施機関
:31百万円
大学(全5機関)

分子イメージング技術に関して、拠点と連携した人材の育成

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について記載する。費
 目と使途の双方で実情が分かる
 ように記載)

A.独立行政法人理化学研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	業務担当職員、補助者	75			
物品費	消耗品(ガス類、実験動物類、理化学 器材類、試薬類、低温液体)	45			
その他	外注費(データベース入力)	3			
	消費税相当額	4			
	旅費	1			
間接経費		38			
計		166	計		0
B.東京工業大学			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
設備備品費	共焦点顕微鏡	19			
その他	消耗品	1			
間接経費		6			
計		26	計		0
C.岡山大学			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品費	消耗品(実験器具類、試薬類)	2			
その他	印刷製本費(講義資料作成)	2			
	その他(ホームページ作成、保守 外注、消費税相当額他)	1			
人件費	業務担当職員、補助者	1			
間接経費		2			
計		8	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人理化学研究所	創薬候補物質探索拠点として、共同研究機関と連携し、臨床での実証を目指した研究開発を実施	166	企画競争	-
2	独立行政法人放射線医学総合研究所	PET疾患診断研究拠点として、共同研究機関と連携し、臨床での実証を目指した研究開発を実施	149	企画競争	-

※)「分子イメージング研究プログラム」(第I期:平成17~21年度)開始の際に公募を実施。第I期プログラムにおいて構築した研究拠点を、本プログラムにおいても拠点として活用するため引き続き事業を委託。

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	東京工業大学	高解像度酸素分圧直接測定の実証と、CTOSへの応用に関する研究開発	26	企画競争	-
2	東北大学	特異的プローブによるタウおよびAβ蓄積メカニズムの解明	18	企画競争	-
3	独立行政法人 理化学研究所	Aβ代謝・蓄積と炎症反応の相互作用の解明	16	企画競争	-
4	国立がん研究センター	抗がん抗体の適合性評価のための分子イメージング臨床研究等	15	企画競争	-
5	独立行政法人科学技術振興機構	科学技術振興による研究開発の推進に関する支援業務	13	企画競争	-
6	財団法人先端医療振興財団	認知症用の炎症PETプローブの臨床開発	11	企画競争	-
7	京都大学	分子イメージングによるタウ凝集阻害薬開発	9	企画競争	-
8	愛媛大学	がん幹細胞を標的としたがん根絶療法の創出	8	企画競争	-
9	福井大学	難治性がん治療に向けた機能画像法の開発	6	企画競争	-
10	大阪市立大学	リン酸化タウの分子イメージングに関する研究およびタウリン酸化酵素Dyrk1a阻害剤のマイクロドーズ臨床試験	5	企画競争	-

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	岡山大学	岡山分子イメージング高度専門人材育成事業	8	企画競争	-
2	浜松医科大学	小動物から霊長類までのPET研究人材育成	8	企画競争	-
3	大阪大学	医薬理工連携によるPET教育研究拠点形成	5	企画競争	-
4	東北大学	連携大学院による組織融合的研究教育の推進	5	企画競争	-
5	北海道大学	医薬工連携を活かしたPET専門人材育成拠点	5	企画競争	-